



働く人 — 『ダリヤ園の花咲姉さん三人組』

平成18年9月定例会

特集 今こそ知恵をしぼろう地域再生のとき (2) P2~3

決算審査 財政再建の道 さらに険しくな お遠し P4~6

町政をただす 「学校統廃合、産業の振興、介護利用」を大いに論じる P8~9

町民の声 夢を追う 夢を掴む P13



大当り ふるさとの味「牛こん」

特集
川西・未来へ

今こそ知恵をしぼろう地域再生のとき (2)

止まるな！走りながら考えよ

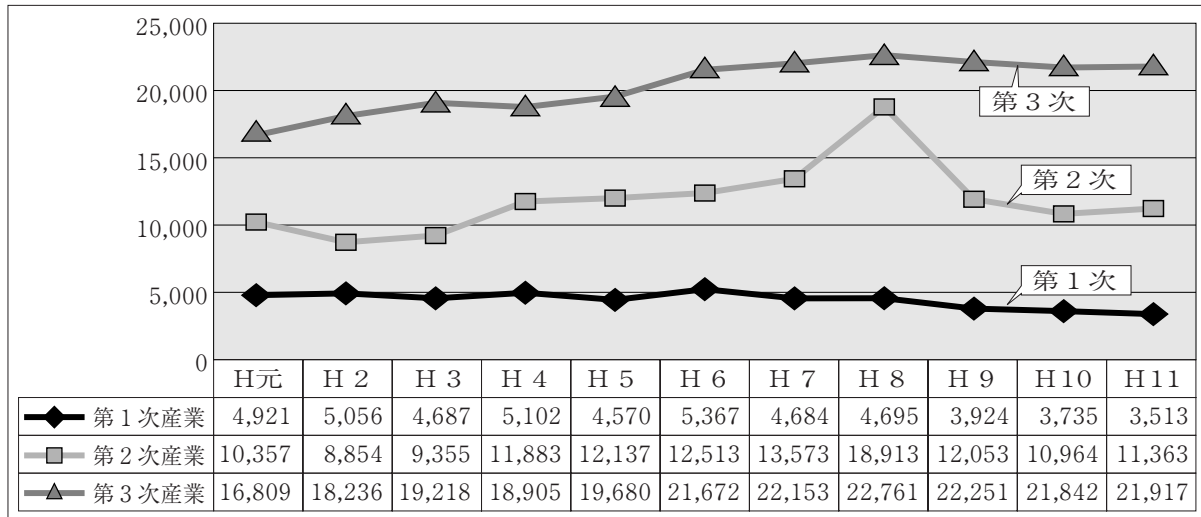
川西町所得向上プロジェクトチームを設置

この八月、山崎助役、産業創造室を中心に川西町所得向上プロジェクトチームが設置された。年内にもアクシヨンプログラムが策定される予定。町内では、農商工連携を合い言葉に、さまざまな取り組み、商品開発もすすめられている。まちが元気を取り戻し、賑わいが生まれる日々は必ず来る！「止まるな！走りながら考えよ」産業振興特集第二弾をお届けする。

産業振興特集の第二弾は、おいしいものの紹介から始めよう。本年八月、本町観光協会が商標登録し、各種観光物産展、モンテディオ山形のホームゲーム、そして、ダリヤ園の売店で販売され、好評を得ている「牛こん」をご存じだろうか。玉こんにやくに唐辛子を練りこんだ南蛮こんにやくと牛すね肉を煮込んだもので、いずこでも大好評である。ダリヤの球根を利用した「ダリヤ焼酎」も、こ

産業別町内純生産

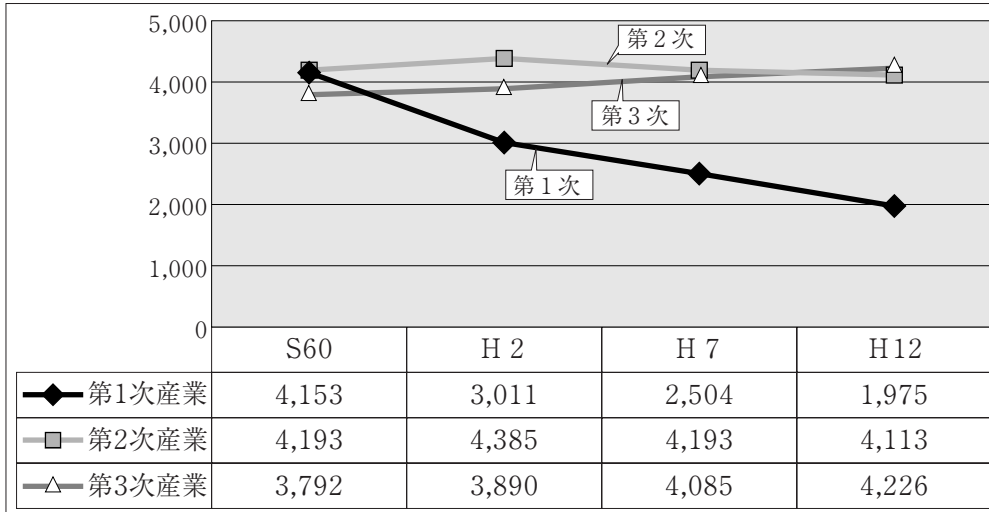
(単位：百万円)



(所得統計)

産業別就業者数の推移

(単位：人)



(国勢調査)



の夏話題となった。町内の酒造メーカーが約九〇〇キロのダリヤの芋を使って二〇〇リットルを醸造したもので、発売二カ月で完売したそうである。「蒸留酒は本来寝かして香味を増やしてから飲むもので」と担当者はくやしがっている。

たら姫生産組合のたらの芽栽培キット「たら坊くん」もヒット商品だ。ただ食べるだけでなく、ほだ木を水につけて加温放置しておけば、芽が出て成長する過程が楽しめる。週刊朝日で東海林さだおのコラムに紹介された。

最後にもう一つ、「粕酒活菜鍋」もこの冬の楽しみだ。「はくしゅかつさいなべ」と読む。川西うまい鍋プロジェクトが作ったもので、大吟醸の酒粕、地場産の味噌と野

菜の薬膳鍋である。天童市の平成鍋合戦に参加し、脚光を浴びた。この他にも紅大豆の特性を生かした菓子や中華メニューの研究や「いも煮めし」「牛るこ」など思わず問い直さなければわからない新商品の開発試作が進められている。いずれも「つくる農業から売る農業への転換」「農・商・工の連携」がテーマだ。これらが川西オリジナリティ商品として、はたして当たるかどうか、そんなことは誰にもわからない。ただ一つ言えることは、前号で述べたように、ここで立ち止まって思案に暮れていてもはじまらないということだ。

現状は確かに厳しいが

前号に続き、別の視点から統計を読んでみる。上の産業別就業者数の推移によると、第一次産業で働く人は一五年で約半分となり、第三次産業は一割増で、構成比二対四対四である。また右下の産業別町内純生産を見ると約一〇年で、第一次産業は三割減、第二次で一割増、第三次産業は三割増と著しく伸びている。構成は二対三対六。統計が少し古いので、この比率は第三次優位に拡大していると推測される。

第一次(農業)では、認定農家の増加や農地の集積が進んでいるが、肝心の総生産額の減で、所得に結びつかず、商業も大型店舗の進出で、商店街の活力が低下、事業所数の減少が進んでいる(前号グラフ参照)。工業では、尾長島工業団地への企業進出はあるものの景気動向に受注が左右される小規模企業が多く、町内労働力の安定的雇用の受け皿としては厳しい状況だ。

昨年四月、自治体の自主的・自立的取り組みによる地域経済の活性化、雇用機会の創出、その他地域の活力の再生を推進するための地域再生法が制定された。その重点施策として、①顔の見える信頼ネットワーク ②地域における産学官(公)の連携 ③地域ブランドの形成、発信が掲げられている。

本町でも、置賜農業高校、山形大学等との連携で川西ブランド研究所の創設が予定されている。一日も早く、川西ブランドと振興デザイン確立が待たれるところだ。



尾長島工業団地 スズキハイテック社

平成十七年度決算 認定

財政再建の道 さらに険しくな お遠し

町債(借金)残高 三億五〇〇〇万円の減少

平成十七年度の一般会計と介護保険など六つの特別会計及び水道事業会計の決算の認定のため決算特別委員会が設置され、三つの分科会に分かれて審査を行った。歳出縮限の努力以上に交付税や町税収入の減少が激しいというジレンマの中にあつて、財政再建の道は険しく遠いとの観がある。最終日、全員賛成により各会計とも可決認定された。



“牛歩のように” ゆっくりと着実に

例年どおり次ページに決算状況のグラフを掲げたのでご覧いただきたい。

昨年の本町一般会計の決算は、収入が八三億五九九万円、支出が八二億八七三一万円である。差引き六九六八万円残った計算だが、十七年度も

財政調整基金という積立金から三四一五万円ほど取り崩して使ったため、実質は三〇九七万円の赤字となった。財政調整基金の残高は、ついに一億円の大台を割りこみ、九七六二万円である。

最大の収入源である地方交付税は、公立置賜総合病院分も含めて四七億

四一四万円、全体の五六・三%となっている。ほとんど期待できないとされていた特別交付金が豪雪対策などもあつて追加され、ほぼ前年並の〇・四%減にとどまったことが幸いした。

支出では、中央公民館の改修や体育館の床の張替えなど維持補修費に伸びがあつたものの、消費的経費、投資的経費ともに徹底した縮減が行なわれた。町債費も、一昨

年低利のものに借換えをしたり、償還のピークを越したことで負担が小さくなり、一二億二四八〇万円(町民一人あたり六万

四七四三円)であつた。なお借金の残高を一人あたりに換算すると、一七万三三三三円である。

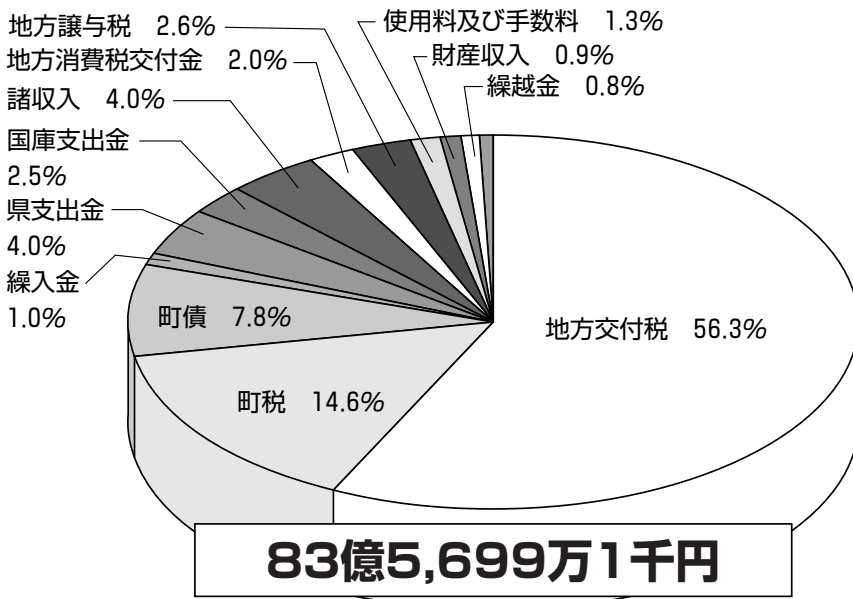
起債(借金)許可団体に

一般会計の元利償還割合を示す起債制限比率は、一・五ポイント下がつて一二・六%となつたものの、今年度から制度が変わつて実質公債比率が二二・〇%となつた。これは他会計や一部事務組合への負担金・元利償還金を分母に加算することとなつたためである。

本町は、引き続き借金をするにあつて協議を要する団体となつた。

平成17年度 一般会計決算状況のグラフ

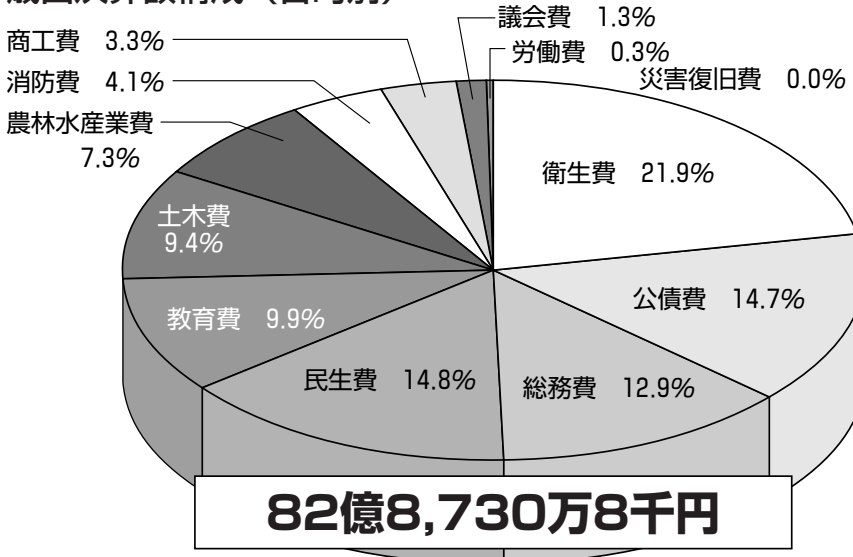
歳入決算構成



(千円)

| 歳入 | 決算額 |
|-------------|-----------|
| 地方交付税 | 4,704,137 |
| 町税 | 1,219,873 |
| 町債 | 654,700 |
| 繰入金 | 87,594 |
| 県支出金 | 332,539 |
| 国庫支出金 | 207,191 |
| 諸収入 | 334,252 |
| 地方消費税交付金 | 160,355 |
| 地方譲与税 | 217,724 |
| 使用料及び手数料 | 103,467 |
| 財産収入 | 73,713 |
| 繰越金 | 66,467 |
| 自動車取得税交付金 | 61,908 |
| 地方特例交付金 | 33,513 |
| 分担金及び負担金 | 65,453 |
| ゴルフ場利用税交付金 | 14,671 |
| 利子割交付金 | 5,916 |
| 交通安全対策特別交付金 | 4,489 |
| 寄附金 | 4,259 |

歳出決算額構成 (目的別)



(千円)

| 歳出(目的別) | 決算額 |
|---------|-----------|
| 衛生費 | 1,810,918 |
| 公債費 | 1,224,999 |
| 総務費 | 1,069,614 |
| 民生費 | 1,225,202 |
| 教育費 | 819,390 |
| 土木費 | 779,163 |
| 農林水産業費 | 605,331 |
| 消防費 | 342,923 |
| 商工費 | 270,769 |
| 議会費 | 111,501 |
| 労働費 | 27,123 |
| 災害復旧費 | 0 |

問 町税、国保税及び水道料などの収納率は、あ
いかわらず低下傾向にあ
るが

答 特別収納月間を設定
し、電話での催告や、夜
間・休日の訪問徴収など
を実施し、納税相談員二
名を雇用して収納督促を
行ってきた。十八年度は
これを強化、二名増員し
た。しかし所得の低迷に
よって滞納の増加傾向は
当分続くと予想されてお
り、現行の所得税が住民
税に税源移譲されれば、
事態はさらに深刻になる
と思われる。

問 町民の参加・参画に
よる各種委員会の運営は
うまくいっているのか

答 各種委員会は「まち
づくり基本条例の根幹だ
が、運営には見直しと改
善が必要である。町民の
能力が十分に発揮できる
あり方について検討し、
さらに積極的参加・参画

問 合併処理浄化槽設置
に対する県補助金復活の
見通しは

答 もともと単独処理浄
化槽から合併処理浄化槽
への誘導策として創設さ
れたもので、平成十三年
の法改正で単独処理槽の
新設が禁止されたことを
受けて補助金が廃止され
た。復活の見通しは難し
い。

問 個別健康教育(糖尿
病等予防)の成果は

答 応募があった一四名
について六カ月間の個別
教育・指導を行い、七割
の方に改善がみられた。

分科会審査のあらまし

分科会は各常任委員会単位で構成され、当該委員以
外の議員も傍聴発言できるよう日程配分される。

第一分科会

を願える方向に努力する。



町長に聞く

各分科会では、担当課の説明の範囲をこえる問題について、町長の出席を求め、直接に政策を聴く機会を設けた。質疑の主な内容は次の通り

問 十七年度財政運営の総括と今後の見通しは

町長 自主財源の乏しい状況に加え、予想以上の豪雪が財政を圧迫し、非常に厳しい財政運営を強いられた。今年も状況は好転しそうにないが、今後は、所得向上対策をはじめあらゆる方策を講じ財源確保に努める。当面は目的基金(残高二億余)

の見直しも考えなければならぬ。

問 老人訪問看護事業をどう評価しているか

町長 制度の改変もあり在宅での療養・看護の必要性はさらに高まっているが、町立病院を背景としていた当初とは大きく変わり、職員体制もギリギリの運営で、需要に 대응するの難しさを安定的に確保するのは困難であると思う。十九年度以降は、民間事業者による事業展開を含め検討を進める。

問 十八年豪雪対応と今後の方策は

町長 予想を上回る大雪のため対策しきれず、住民の皆さんに迷惑をかける結果となった。

今後はさらに除雪機械の調達を行うなど要望に対応したい。

要望 地域の自主自律性を重んじ、除雪アダプト事業に取り組んでは

平成17年度 特別会計

| 会計名 | 歳入決算額 | 歳出決算額 |
|------------------|---------------|---------------|
| 国民健康保険事業 特別会計 | 1,775,642,829 | 1,754,024,906 |
| 下水道事業 特別会計 | 898,544,454 | 887,380,050 |
| 老人保健 特別会計 | 2,070,296,826 | 2,058,125,569 |
| 農業集落排水事業 特別会計 | 85,656,842 | 82,424,752 |
| 老人訪問看護事業 特別会計 | 18,174,368 | 18,059,999 |
| 介護保険事業 特別会計 | 1,335,247,166 | 1,326,971,819 |

総括質疑

バランスシートの充実を

黒澤 巖議員

問 本町では一昨年より作製・公表されているが新聞報道によると、県内で特別会計を含むバランスシートが作られている自治体はたいへん少なく驚いている。破産してしまった夕張市の例を引くまでもなく、公営企業や一部事務組合その他への債務負担行為なども

含めなければ完全なものとは言えないのではないかと考えているのだがどうか。
政策総務課長 県の指導では、今のところ、特別会計までを含めたものとなっている。外部支出は町の資産とならない例が多く難しいと思う。

未収金対策は万全か

高橋 照夫議員

問 町税をはじめ、各使用料・手数料等の未収状況は平成十七年度決算において七億八六〇〇万円にのぼり、歳入全体の一〇%近くあり、年々微増傾向で大変危惧される。厳しい財政状況の中、財源の確保及び税負担の公平性からも抜本的な徴収手法の見直しと強力な対策が必要と思うがその対策は。

町長 未収滞納対策として職員4名、嘱託員4名を配置し収納に努めたが、収納率七五・一%と前年度より〇・三二%減じた。滞納額は、年々増加傾向にあり関係各課の連絡会議を設置し、税法に従った措置を講じ収納向上に努めたい。



「訪問看護」町が続けるのはムリ？

補正

一般会計

時間外保育は次年度へ

歳入歳出それぞれ一六九万二千円追加し総額七六億三四二〇万六千円とするもの。

歳出のうち幼稚園児の保育時間の延長については、臨時教諭のみによる体制確保が困難なため、次年度へ延期となり九二万六千円減額、同案件は五年程以前よりの懸案事項であり、調査不足の当初予算ともなるとして一時粉砕した。管外保育委託料七四六万一千円、放課後児童健全育成事業委託料五四万九千円、小学校耐震優先度調査委託料二〇九万八千円、ふれあいの丘整備事業さくら植樹工事費一二〇万円、置賜病院運営事業負担金一八二万九千円減ずる。

歳入は、繰入金、繰越金、普通交付税などを減ずる。
全員賛成で可決

国保

歳入歳出それぞれ八千六百九十七円を追加し、総額を一億一六八万七千五百円とするもの。

歳出の主なもの、保険財政共同安定化事業拠出金八六二万九千七百円。

歳入は療養給付等国庫負担金過年度分三五六万九千円、保険財政共同安定化事業交付金八六二万九千七百円、保険給付基金一七二万五千円が主なもの
全員賛成により可決

老人保健

歳入歳出それぞれ三〇〇万七千円を追加し、総額を二〇億五二七

一万六千円とするもの。歳出の主なもの、法改正システム開発業務委託料三〇〇万七千円。

歳入は事務費国庫負担金一五〇万円、一般会計繰入金一五〇万七千円
全員賛成により可決

介護保険

歳入歳出それぞれ七五七万六千円追加し総額一四億七千一六万五千円とするもの。

歳出の主なものは、平成十七年度介護給付費国庫負担金、交付金返還によるもの。

歳入の主なものは前年度繰越金によるもの。
全員賛成により可決

訪問看護老人看

歳入歳出それぞれ五万七千円を追加し、総額を一七三万四千円とするもの。

歳出の主なものは手数料四万九千円、歳入の主なもの訪問看護事業費一四万三千円。
全員賛成により可決

水道

事業の確定及び国からの補助対象が増額したため減額するもの
全員賛成により可決

集落農業排水

歳入歳出それぞれ三十一万八千円を追加し、総額を八五三二万七千円とするもの。

歳出の主なものは、光熱水費、修繕料一〇三万四千円、制御盤等点検業務委託一六三万四千円。
歳入は前年度繰越金三一八万二千円。
全員賛成により可決

下水道

歳入歳出それぞれ七四八万六千円を減額し、総額七億八四九〇万円とするもの。
全員賛成により可決

議会広報モニターから一言(4)

今年に入り部落の係をするようになり、色々な会合等に出かけ話をするうちに、議会だよりを思い出し読み直しました。一般質問は議員一九名で七八号以降三年間延べ二九名の方ですが、最高五回が二名一〇名の方が載せられています。一般質問だけではなく議員全員の方々の考え方も載せて頂ければ議員の方達を知る手がかり



議員全員の考え方がわかる方策を

となると思います。「緑と愛と丘のあるまち」がキャチフレーズであるはずの川西町、玉庭に産業廃棄物中間処理施設計画が提出

朴沢 高橋 通夫

たい。確かな情報をわかりやすく伝え、正しく理解出来るような工夫を出していただきたいと思います。



消防車ダイスキ!



議論白熱！「教育の舵取りは」

学校の統廃合は、住民の総意で 教育長 地域の人の意見を聞く



淀 秀夫 議員

淀 少子化が進む本町にとつては、児童生徒の大幅な減少が見込まれ、財政上、学校の統廃合計画が行政課題です。今年の二月、教育委員会が作成した計画書によると、小学校八校を二校に、中学校三校から一校にそれぞれ統廃合すること。

また、いずれも山間部を除いた平地に配置するようです。

この計画にもとづいて、七月、児童生徒の保護者との座談会を聞きました。その出席者数と意見内容は。

教育長 出席者数は七地区で合わせて二二〇人。プランの賛否や具体的な要望事項が出ました。

淀 教育は百年の計といわれ、かつて昭和五四年、当時の高橋和郎町長時代、中学校の統廃合が浮上し、一町一校案が紛糾の末、取り下げて撤回した経過がありました。

この度は、保護者のみ

の座談会になったようだが、今後の対応は。

教育長 今後は、地域の人達や子供達の意見を聞く機会を持ちたい。

淀 この夏も、東沢や玉庭の地域に都会から多くの子供達が訪れ、民宿、農業体験、音楽を通して地域との交流を深めました。都会から憧れられるこの里山から、学校がなくなる計画書に疑問。

山間部に小学校を残すことは、しいては過疎対策にもつながる。

豊かな環境で育む教育こそが原点と思うが。

町長 少子化による児童生徒の減少や、逼迫している財政からも、学校の運営効率化を図らざるを得ない。



介護利用の制限はすべきでない

町長 業者・ケアマネジャー・利用者で合意



平田千代子 議員

した予防介護と同時に猶予期間後も、福祉用具の取りあげ、利用制限等はやるべきです。

町長 本人の状態や必要とされるサービス内容について、事業者とケアマネジャー、利用者の合意形成で決定している。

平田 川西町に於ても例外でなく高齢化率二八・七%となり介護を必要とする人が多くなっている。介護保険法が改悪され、四月から完全実施、介護を必要としながら利用を制限せざるを得ないと嘆かれてる人がいます。福祉用具についても、要介護一までの軽い人は保険の対象外とされます。新予防給付では、自分でやる事が基本”となつて

いるが、家族が同居していない、地域に支援者がいない場合など、とり残されている人がいないか介護を必要とする人が充分な介護を受けていると思われるかがいたい。

施設利用についても昨年十月から居住費、食費全部が自己負担となり、影響が大きく退所せざるを得ない人が出ている。低所得者については対策を実施、問題ないといわれるが実際は退所者も出ているし退所を考えてる人もおられる。

介護で大切な事は徹底



母ちゃんの知恵から生まれた「牛るこ」



高橋 照夫 議員

町が元気にうるおう産業の振興策は 町長 川西ブランド創造と起業を目指したい

高橋 第四次川西町総合計画が、平成一六年六月に制定された「川西町まちづくり基本条例」に基づき策定され、本年四月よりスタートしたが、町がうるおい元気になるためには、町民一人ひとりの所得向上と雇用機会の創出、更には本町産業の振興が大前提である。現場組織体として相乗効果を上げる知恵の創出及び実践に向けた具現策は。

町長 本年八月二五日に庁内に助役をリーダーとする「川西町所得向上プロジェクトチーム」を設置し、町民所得の向上を図るためのアクションプログラムを年度内に策定し、新たな価値としての川西ブランドを獲得し、町全体に活力を生み出し、所得の向上に結びつく産業の振興を図ってまいりたい。

高橋 国の地域再生法に基づき、全国では地域再生計画を策定している。

計画の認定状況は市町村単独の計画で三三七件が認定されている。地域における産学官連携の強化や地域ブランドの確立とデザイン化により、集客交流人口等の拡大、地域の魅力発掘など情報発信等の戦略的活用を図ることが、川西ブランド確立に向けた最短距離にある。川西ブランドの創出に向けた企画開発、営業、実践活動を行う体制とその具現策は。

町長 本町の優れた資源や宝を活かした地場産物の加工品開発への支援や地産地消の連携と付加価値の研究、置賜農業高校や山形大学をはじめとした各種機関の指導を得て産・学・公の連携を図り「仮称、川西ブランド研究所」を年度内に創設し、様々な取り組みから川西ブランドを目指したい。



健康第一は「軽運動から」

通学区域の見直しは、地域の衰退につながる

平田 学校規模の適正化にむけた通学区域の見直しについてですが、児童生徒の保護者はもちろん住民の方も地域の衰退につながる、地域発展の損害になるなど心配の声が聞かれる。教育については大きい事がすべて良い

でもなく競争で学習意欲が高まるとも思われない。「教育は百年の計」といわれる如く充分な時間と説明、そして納得と合意の上で進められたい。

教育長 性急とならぬよう配慮しながら、より良い将来の教育環境の実現に向け合意をいただける内容で推進することが肝要と考える。

出産一時金

三五万円に増額

葬祭費は減額へ

川西町健康保険条例の一部改正

健康保険法施行令の一部を改正する政令が施行されたことに伴い、出産

育児一時金を三〇万から三五万円に増額改正し、

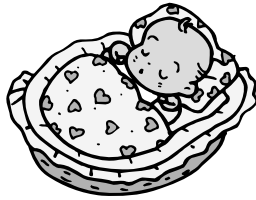
平成十八年十月一日から適用。また、葬祭費を七

万円から五万円に減額改

正、平成十九年四月一日

から適用する。

全員賛成により可決



教育委員会委員の任命に同意

平成十八年九月三十日で任期満了となる教育委員の任命について全会一致で同意した。



高橋弘子 (再任)

住所・川西町大字吉田二六

九一番地

生年月日・昭和十六年九月

二七日生

産廃処理施設請願を不採択

一年に及ぶ長い審査の末

◎産業廃棄物処理施設設置等に関する請願書。

《請願者》

川西町大字玉庭七八五―

一玉庭地区自治会会長

会長 伊藤勘一 他六名

《審査内容》

平成十七年十二月十三日

の川西町議会定例会本会

議において、厚生常任委

員会に審査付託され、こ

れまで継続審査となつて

きた。審査が終了し、九

月二八日本会議において

審議案件となる。審査内

容の報告では、請願書に

ある当該施設については、

リサイクル施設で地域住

民の方々が心配されてい

る問題等については回避

されそうであること、ま

た中間処理施設であり、

これまで当地区に建設計

画のあった施設とは異なり、環境保全のための循環型社会を形成するうえで、今後、必要とされる施設であるとの認識が委員の中で多数を占めた。

少数意見としては、地元

の不安、合意の整わない施設については、設置

を認めるべきではないとの意見もあつた。本会議における委員長報告は不採択。

審議結果は、採択六、

不採択十二で採択少数に

より不採択。

採 択

◎地域と中小企業の金融環境の改善と金融の円滑化を求める意見書採択についての請願書。

《請願者》

山形県山形市南館三丁目

二六―二六

スタジオ・アヴァン一〇

二

山形県中小企業家同友会

筆頭代表理事

阿部秀俊

全員賛成

◎町道三枚床道環線の早急な部分改修を求める請願書。

《請願者》

川西町大字堀金一五五〇

番地

堀金大字会

会長 鈴木賢輔

他五名

全員賛成

財源保障機能及び調整機能を強化せよ!

地方の時代とさげばれながら、なかなか地方に力が出て来ない。地方切り捨ての政治が進まぬなら、経済・文化すべてにおいて安全・安心な国づくりはありえない。地方政策に力点を置いた政治こそが、これからの充実した国家運営の基本と考える。

「新型交付税」導入に関する意見書

「地方分権二一世紀ビジョン懇談会」の最終報告において、「新型交付税」を導入する提案が示されたが、この導入の方法によっては、豪雪・寒冷など条件不利地域において必要な財政需要に的確に対応できなくなる事態も懸念されることから、各町村の財政運営に支障をきたさないよう、交付税の総額確保及び充実に強く求めていく必要がある。交付税改革を進めるにあたっては、「地方分権の推進に関する意見書」を最大限尊重するとともに、各地

域の実情を十分に踏まえ、地方交付税の財源保障機能及び財源調整機能を強化し、各町村の財政運営に支援をきたさないよう十分配慮されたい。(以下略)

提出先

総務大臣、総務副大臣、総務大臣政務官、総務事務次官、自治行政局長、自治財政局長、自治財政局財政課長、自治財政局交付税課長、自治財政局財務調査課長、衆議院議長、参議院議長

国内農業と農村を守れ

「農」と「国民」との関係はきわめて密接な関係にある。農業が堅実なあゆみを進め確実な発展と遂げる事は、安心して暮らせる第一条件といっても過言ではない。その農業の現在の状況は非常にきびしい環境にさらされている。なかでも、農産物をめぐり諸外国との関係はまことにきびしいが、国と国民の自立のためにもWTO農業交渉に、政府の強い姿勢が求められている。

WTO農業交渉の日本提案実現に関する意見書

(本文略)

記

一、上限関税の導入を阻止すること
二、米などの我が国が抱える重要関心品目について、十分な品目数を確保するとともに、適切な関税割当の設定を行うこと
三、農業の多面的な機能など非貿易的関心事

提出先

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、農林水産大臣

地域と中小企業の金融環境の改善と金融の円滑化を求める意見書

提出先

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、経済産業大臣、内閣府特命担当大臣、中小企業庁長官



農産物と工業製品はちがう

表紙の写真



働く人

ダリヤ園の花咲姉さん三人組

(吉島) 神野玲子さん
(東大塚) 遠藤恵子さん
(塩野沢) 金子とみ子さん

ダリヤ園の栽培管理に働く三人の花咲姉さん。神野さん、遠藤さんはキャリア四年。金子さんは今年から作業に従事している。固いつほみがふくらんで、見るまに大輪の花となるように立ち合えること、来園された皆さんに手入れを評価してもらえらることなど嬉しいことの多い職場だという。笑顔の明るさがダリヤと競っているかに見える。

委員会 レポート

総務常任委員会

鷹山公の故郷で協働のまちづくりを学ぶ

平成十八年八月二十九日～三十一日まで宮崎県高鍋町、鹿児島県の志布志市へ先進地調査を行った。高鍋町は人口約二、三〇〇〇人で宮崎県の中部海岸沿いに位置し、町村合併（東児湯五町）にも取り組んできたが、平成十六年八月に合併協議会が解散したという。第四次行政改革大綱を平成十七年五月に策定し、町民との協働によるまちづくりの推進を柱とする一〇項目に及ぶ実施項目を定めた。地区と行政が協働で課題に取り組み地区担当制の導入。地区民にとって関心の高いテーマについて、行政が現状や課題を説明し、意見交換を行い、最終的に行政側へ方針、施策を提言する「まちづくり意見交換会」等を実施している。

行政改革の実施項目は半年ごとに進捗状況を確認し、「実施済・継続中・一部実施」と、項目ごとに実績を示していた。高

産業建設常任委員会

五〇〇億円の水瓶の完成が間近

七月二十一日、東南置賜二市二町の水瓶となるべく建設中の綱木川ダム及び拡張工事を行っている置賜広域水道事業所の視察を実施した。綱木川ダムは、昭和六十三年に着工され、現在は約九〇%の進捗状況となっており、約二十年の工事期間を要し、来年度



完成間近、綱木川ダム

厚生常任委員会

医療費削減の先進地視察

平成十八年七月二十四日から二十六日まで、鳥根県安来市と飯南町を訪れ、健康づくりによる医療費削減の先進地調査を行った。安来市は、年々医療費が増加傾向にあり、七年前から生活習慣病の糖尿病対策として市民に糖尿病手帳を配布し、定期的に血糖値や、メタボリックシンドローム（代謝不良症候群）を測定しながら、健康管理に努めてい

る。結果、糖尿病と予備軍医療費は二〇%の削減がされた。飯南町では、国保事業によるヘルスアップ事業に取り組んでいた。この事業でも、多かつた生活習慣病対策として、安来市と同じく予防を中心に努め、医療費削減に効果を上げていた。



飯南町健康福祉センター

置賜広域水道事業所では、綱木川ダム完成に合わせての水道用水の受け入れ及び浄配水のための施設の拡張工事を行っており、今回は、笹野山の三基におよぶ導水トンネル現場の視察などを実施した。両事務所における視察説明会のなかで、ダム負担金と広域費を合わせて二五六億円が今後の水道料金に算入されると思うが、できるだけ受益者の負担増にならないようにと要望を行った。

来年度中には新ダムからの供給が始まり、本町において念願であった水不足が解消され、かつ良質の水道水が確保される事は、将来にわたっての責務を果たして行けるものと確信された視察調査となった。

高鍋町役場前



町民の声

夢を追う 夢を掴む

黒澤雄一

川西町堀金

「若いなあ」と言われると内心嬉しいのですが、「いやいや、そんなことはないよ」と返します。実は当年五十五歳。昔なら停年です。

『北海しぶき』
いい曲です！

去る九月二十四日県歌



嵐のような拍手の中、父さん気分最高！

謡振興会置賜支部の皆さんはじめ、多くの友人たちの応援で、はじめてのリサイタルを催すことができました。若いころから、いつかこんなステージに立ってみたいと夢を見続けて来たのでこみ上げるもので胸がいつぱいになり、午後の部では声をつまらせてしまいました。本当に友人たちや、そして何よりも、チケットをお買い求め頂き、わざわざフレンドリープラザまで足を運んでいただいた皆さんの皆さんに、心からお礼を申し上げます。

今回発表しました『北海しぶき』は花笠薫先生から頂いたものですが、二十年も以前に、私が川西の歌謡会に加えてもらって間もなく、県の歌謡大会で団体優勝した折の思い出の曲です。演歌はどれもそうですが、二十年を経ても、詞も曲も全く新鮮です。歌い手の年齢に応じて、思いの入れ方も変わり、聞き手の感じ方も変わるものなの



「専業農家で生き抜く」これが私の城だ

だとはためて思っています。人生の応援歌として、長く皆さんに親しんで頂けたらと願っています。

夢を追い続けること

私の本業は花つくり農家。現在、六棟一五〇〇坪のハウスで切り花栽培をしています。八年目に

して、技術的にも経営的にもようやく安定期を迎えました。昨今の灯油高には頭を痛めています。アルストロメリアの原産国はオランダ。したがって種苗費には一個一年五〇〇円程度のロイヤリティを支払います。だいたい一〇〇坪に四〇〇から五〇〇個定植します

ので、五年分のロイヤリティは大きな負担です。夏の高温障害と普段の土壌管理が、根を疲れさせないためのポイント。長く、ていねいに育てることが大切なことは演歌と同じです。

専業農家として生き抜いていくという夢の実現のために、トマト、そしてシイタケ栽培など多くの試行を繰り返し、アルストロメリアに行き着きました。結論はこれからです。夢を追い続けることが最も大切なことだと思っています。

川西は日本の アルガデヤの原風景

南陽市・山川正吾さん

わがまちをよそから見れば…



<やまかわ しょうご>

昭和8年南陽市生まれ
南陽市在住
職歴：管内各公立小中学校で教諭を務めたのち現在、「いちようの家」施設長、日本野鳥の会県支部長、夕鶴の里友の会会長。

イギリスの女性旅行家イザベラ・バード(一八三一〜一九〇四)の書いた日本奥地紀行に、川西町のことがあつた。イザベラ・バードは、旅先から妹や親しい知人に宛てた手紙文という形で書いている。それゆえ、芸術的に体裁を整えたり、文学的に材料を取り扱うことが不可能になり、自己中心的な書きぶりにならざるをえないことわつてゐる。このことは、感じたことを、素直にそのまま書いたということになる。バードいわく「たいそ

う暑かつたが、快い夏の日であつた。…米沢平野は、南に繁栄する米沢の町があり、北には湯治客の多い温泉場の赤湯があり、まったくエデンの園である。『鋏で耕したというより、鉛筆で書いたように』美しい。米、綿、とうもろこし、煙草、麻、藍、大豆、茄子、くるみ、水瓜、きゅうり、柿、杏、ざくろを栽培している。実り豊かに微笑する大地であり、アジアのアルカデヤ(桃源郷)である。自力で栄えるこの肥沃な大地は、それを耕している

人々の所有するところのものである。…「彼らは、葡萄、いちじく、ざくろの木の下に住み、圧迫のない自由な暮らしをしている。…美しい、勤勉、安楽さに満ちた魅惑的な地域である。山に囲まれ、明るく輝く松川に灌溉されている。どこを見ても豊かな農村である。…私たちが通過した村々は、吉田、洲島、黒川、高山、高滝(うたが)であつたが、さらにこの平野には五十以上の村落の姿が見えてゐる。…」。

定例会は3、6、9、12月です。くわしくは議会事務局へ行ってみませんか

議会傍聴

手続きはかんたん。だれでも傍聴できます。

りくねつていた道路や古い家並みが浮かぶ。昭和の終わりには、アスファルトの直線道路に変わった。川西中学校勤務のときは、いろいろな町の行事に参加させていただいた。ちょうど、国体の準備に忙殺されていた頃である。川西町は発展していると感じた時代である。ずいぶんたつた今でも、ケーブルテレビに町のニュースが出ると、身をのりだして目をみはる。フレンドリープラザ、ダリヤ公園、そして多くの体育施設。置賜公園での獅子まつり等等など。今も昔も、いつまでもアルカデア川西に、幸あれ…。

編集のなごり

秋篠宮家に親王がお生まれになった。皇室の男児出生は四十年ぶりという。皇室典範の改正ももう少し時間をかけてとなつたのは同慶の限り▼大胆に変革すべきものと、安易に変えるべきでないものがある▼この国は端徳の国。稲刈りもようやく終え、農家はホツと一息ついた時節だが、表情は必ずしも明るくない。雨量もさることながら価格が低迷しているためだ▼稲作農民が経済的に不遇であるというだけで軽んじられるようになったのはいつごろからだつたか▼飯粒をこぼすと目がつぶれると叱る祖母の教訓は、今も正しいと思えるのだが▼安部新政権は地方の復権を本気で考えて欲しい。(クロ)

- 委員長 黒澤 巖
- 副委員長 高橋 照夫
- 委員 横山 明博
- 委員 島貫徳石工門
- 委員 佐藤 興市
- 委員 高橋 建一